

# 会 議 録

第 1 1 回定例会

開会 令和3年9月10日

## 教育委員会会議録

1 開 会 令和3年9月10日 午後3時30分

2 閉 会 令和3年9月10日 午後4時20分

### 3 教育委員会出席者

教育長	柚 浩一
委 員	河口 雅子
委 員	菊池 健次
委 員	島 隆寛
委 員	三木 千佳子
委 員	河野 暁

### 4 教育長及び委員以外の出席者

副 教 育 長	臼杵 一浩
教 育 次 長	藤本 和史
教 育 次 長	藤田 完
教 育 創 生 課 長	重田 英紀
生 涯 学 習 課 長	藤井 宏孝
教 育 政 策 課 長	高崎 美穂
教 育 政 策 課 副 課 長	高木 和久

[開 会]

教育長 定例会を開会する旨を告げる。

[会議録の承認]

教育長 配付されている会議録を承認して差し支えないかを各委員に諮る。

各委員 異議なし。

教育長 会議録を承認する旨を告げる。

[議 事]

教育長 報告事項2を非公開として差し支えないかを各委員に諮る。

各委員 異議なし。

教育長 そのように取り計らうこととし、議事に入ることを告げる。

《報告事項1 第4回「新時代における徳島県公立高等学校の在り方検討会議」の概要について》

教育長 報告を求める。

教育創生課長 内容等を報告する。

〈質 疑〉

島委員：10年後の生徒数はほぼ確定しているので、高校の配置や教職員数等、確実に到来すると思われる10年後の未来について、今のうちに将来像を描いておく合理的なものになると思われる。そうすれば、状況が変わった場合でも微修正で対応できる。ある市議会議員は、タブレット端末を用いた教育について、数年後の買い換えの時に予算があるのか心配していた。その話を聞いて、3年後、5年後のことも含めて予算化しておくべきと感じた。

河口委員：2点述べさせていただきたい。1点目は、スクール・ポリシーに係る評価についてである。学校では様々な評価があるが、評価は翌年度の改善に向けての手立てであるので、それらを連動させる工夫が必要ではないか。現場としては、いろいろな評価がありすぎると評価するだけで終わってしまう。2点目は協働的な学びの確保に向けた方策についてである。資料4からも、阿波市や美馬市の生徒数の減少幅が大きいことが分かる。これを見

ても、今後の生徒数の減少は見えている。ICTなどを活用した協働的な学びもある程度は可能だと思われるし、各校工夫して、スクール・ポリシーを策定しているが、ある程度の規模があることで、部活動のみならず、協働的な学びが確保できる場面が多い。来年度から、高校でも学年進行で新学習指導要領が実施されるタイミングでもあるので、⑥、⑦に書かれている意見についてよく考えてほしい。

教育創生課長：1点目について、学校現場が評価疲れしないように取組を進めていきたい。また、協働的な学びの確保についても、生徒数の推移を今後とも注視していくとともに、それ以外の様々な観点からも検討する必要があると認識している。

菊池委員：学校運営協議会は年間3、4回開催されると認識しているが、スクール・ポリシーの評価は、どのタイミングで実施されるのか。

教育創生課長：次年度の改善に向けた評価であるので、当該協議会の後半に行われるものと認識している。

菊池委員：会議録にも生徒の意見を聞く場があっても良いのではないかという意見があった。校長の裁量で生徒が参加するのか、あるいは、どこかのタイミングで生徒の意見を聞くことにするのか。

教育創生課長：当該協議会は、生徒が参加するようにはなっていないが、生徒の意見を聞く工夫をしている。学校によっては、生徒にアンケートを行い、それを踏まえて議論することなどを想定している。

菊池委員：生徒に事前に話をした上でアンケートを行うなどの工夫をしてほしい。

河野委員：今後の生徒数の減少を考えると、どうしても再編が必要になってくるのではないか。地域の要望もあって、大変な作業になると思うが、生徒にとって魅力のある高校の在り方を考えてほしい。西部では、自分の行きたい学校がない場合は香川県に行ってしまう。できるだけ県内で魅力ある学校を作っていただきたい。

三木委員：やりたいことがあっても、住んでいる地域によっては近隣の学校に通わざるを得ないといった状況があると思う。タブレット端末でつながる時代になってきたので、将来的には、他校が実施している授業のうち自分が受けたい授業の時だけ、他の学校とつないで受講するといったことが可能にならないか。

教育創生課長：他県では、将来的にサテライトスクールのような在り方を考えているところもあると聞いている。

三木委員：子どもたちの夢が広がると良いと思う。

河口委員：生徒数の減少の問題は、高校だけでなく、中学校の部活動にも大きな影響

を与えている。学校行事や部活動，教科の学びにしても学校自体に一定の規模がある方が望ましく，様々な学びができる。先を見越して再編も考えていったら良いのではないか。

教育創生課長：協働的な学びにおいては，リアルな生徒同士の関わり合いが基本となってくる。教育においても，変えてはいけないものと変わらなければならないものがあるので，そこをしっかりと考えていきたい。

島委員：コロナ禍だが，こういう状況でないと改革が進まないという面もある。タブレット端末の買い換えにあたっては，この1，2年の実績が必要になってくる。コロナ前の状況に戻ってしまうのはいかがなものかと思う。徳島県は，全国学力テストの順位が全国9位という報道もあったので，有効に活用していただきたい。先程述べた市議会議員の方は，このままではICTを活用した教育が定着しないとおっしゃっていたが，そうならないよう様々な試みを進めてほしい。

教育長：様々な意見を頂戴した。在り方検討会議では，子どもの数が減っていく中で，学校が持続可能なものとして質の高い教育を子どもたちに提供するには，どのようなやり方があるのかということ踏まえて議論されている。当該検討会議は今後も開催されるので，引き続き意見を頂く予定である。また，新しい教育の在り方についても，まずは，色々な意見を頂き，しっかりと咀嚼し，教育の質を高めるために有用ということであれば検討していきたい。

[非公開]

《報告事項2 「世代を超えて開かれつながる社会教育推進事業」について》

《協議事項1 令和3年度9月補正予算案について》（追加）

[閉会]

教育長 本日の議事が全て終了したので閉会する旨を告げる。

閉会 午後4時20分